

竹下大臣ぶらさがり会見（岩手県訪問）

（平成27年7月18日（土）17：45～17：48 於）岩手県平泉町）

1．発言要旨

感想ですが、あまりの若さに圧倒されております。こういうイベントに我々が参加する機会はないものですから、びっくりすると同時に、この熱気を持った人たちがこれからの未来を育ててくれると、そのことにますます思いを寄せなきゃいかんなどということを感じました。

2．質疑応答

（問）今日は陸前高田市、まあ被災地をごらんになりましたが、来年度予算など復興予算の枠組みが決定して以降は初めて入られたと思うんですけども。

（答）うん、高田はね。

（問）実際に住民の方と触れ合ってみて、彼らの意識、例えば意識の変化を感じる部分があったとか、そういう何かこう、お感じになる部分というのはありましたでしょうか。

（答）まだまだ陸前高田は工事進んでいる途中で、復興はまだまだ道半ばという感じはしましたけれども、住宅に入っている皆さん方、また仮設に入っている皆さん方とも話しましたけれど、笑顔が多くなったんですね。やっぱり先がだんだん見えてきたと、ああ、俺たちはここへ住むんだなというのがだんだん見えてきたというのは、やっぱり励みになるんでしょうね。今まで、これまで何回か高田には入りましたけれど、あ、笑顔が多くなったなというのは感じました。この4月から高田高校が新しく建ちまして、そこへ行って校長先生と話をしたり、たまたまブラスバンド部が練習をしていましたのでそこを回っているいろんな話を子供たちともいたしました。私もかつて中学時代、ブラスバンド少年だったものだから、大変親近感を覚えて話をしまして、いや、頑張っているなということを実感しました。この子たちが未来を背負っていくんだなということも改めて感じたところであります。

そこでは言えなかったのですが、本当に、頑張れって大きな声で応援してやりたいというような気持ちになりました。

（答）来月には岩手県で知事選が告示になります。復興を今後どういうふうに進めていくかというのも一つの争点になるかと思いますが、大臣として被災地のリーダー、こういうふうにあるべきだと、今後の復興を考えていて、こういうふうにあるべきだという、もしお考えがあればお願いいたします。

(問) 私は復興大臣ですので、どなたが知事になろうとも知事は地域の代表ですので、その人を中心にして、復興というものをやり抜いていかなきゃならんと。政党とかそういうものじゃなくて、知事とか市長、町長というものは、その地域が選挙で選んだ人たちですから、その人たちは必ず中心に置いて物事を考えていかなきゃならない。これが復興をやるものの基本的な姿勢だと、こう思っております。ありがとうございました。

(以 上)